



# 原子力産業新聞

2012年3月29日  
 平成24年(第2616号)  
 毎週木曜日発行  
 購読料1年分前金(消費税、国内送料込)  
 会 員 9,500円(1部220円)  
 非会 員 15,000円(1部350円)  
 (当会会費は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部)

発行所 日本原子力産業協会

〒105-8605 東京都港区虎ノ門1丁目2番8号 虎ノ門琴平タワー9階 郵便振替 00150-5-5895  
 電話 03(6812)7103 FAX03(6812)7110 ホームページ <http://www.jaif.or.jp/> メールアドレス [shinbun@jaif.or.jp](mailto:shinbun@jaif.or.jp)

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

## 耐性検査で初の見解

### 安全委が大飯3、4号で

#### 速やかな二次評価求める



大飯原子力発電所3号機(左)と4号機(右)の耐性検査の様子。3号機は23日の臨時会議で、4号機は24日の臨時会議で実施された。

原子力安全委員会は、二十三日の臨時会議で、関西電力大飯発電所3、4号機(1号機は24日の臨時会議で実施された)の耐性検査(一次評価)について、緊急安全対策等(耐性検査)の一次評価に

一定の効果が示された。二次評価を速やかに実施し、一層の安全性向上に努めるべきとする見解をとりまとめた。同委が個別プラントのストレステストについて、見解を示すのは初めてのこと。

ストレステストは、福島事故を踏まえ、安全委員会が同委設置法に基づき、原子力安全・保安院に対し要請した「総合的安全評価」で、設計上の想定を超える外部事象に

対する安全裕度を多重防護の観点から把握するとともに、事業者自らによる実施。その評価結果に対する保安院の審査を通じて、施設の耐性に関する総合的な評価を確認するのが主目的だ。一次評価と二次評価のうち、定期検査中のプラントについて実施する一次評価は、官房長官、経済産業相、原発担当相により昨夏に公表された合意文書で、運転再開の可否を判断するものと位置づけら

れており、今回、大飯3、4号機の一次評価結果について、技術的・専門的見地から、一定の評価が得られたことから、今後の再稼働に向けては、関係レベルでの判断に焦点が移ることとなる。

安全委員会では、二月十三日に、保安院から大飯3、4号機の一次評価に関する審査結果報告を受け、専門家による検討を五回にわたって開催、技術的検討を行った上で、このほど個別プラントとしては初の見解取りまとめに至った。一次評価については、地震および津波に対する施設の裕度を簡略な方法によって

評価したもののみであるが、個別の施設について、事業者による評価が提出され、規制庁による評価がなされたことは、「一つの重要なステップ」と評価している。

その上で、二次評価に向け、①事業者独自の努力・マイプラント意識②技術的背景③共通要因故障・従属要因故障の同定④シナリオ同定の確信性⑤成功パスの確信性⑥可搬施設による対処の考え⑦経過措置の確信性——の各項目から、安全委として留意すべき意見を示し、二次評価を速やかに実施し、一層の安全性向上を目指した継続的改善に努めるべきとした。特に、検討会でも議論となった成功パスに関しては、多様なパスを定量的に解析し、対処可能な範囲を広げる努力を行うべきなど、頑健性をより向上させるよう求めている。

## 総合資源工ネ調査会 委員の視点盛り込み再整理 工ネ・ミックス選択肢、審議佳境

経済産業省の総合資源エネルギー調査会・基本問題委員会(委員長・三村明夫・新日本製鉄会長)

は二十七日、前回合意で行った各委員からのエネルギーミックスの選択肢に関する意見照会集約を、原子力発電の比率で「〇%」「五%」「一〇%」「二五%」「三五%」と、数字を示さない意見とに類別し、これらに関する基本的考え方・視点も加えた「A」「F」の二つの再整理した。今後は、五月のエネルギー・環境協議への選択肢提示に向け、さらに集約を図り検討を進めていく。

二十七日の会合で示されたエネルギー・ミックスは、**A【数値なし】**「社会的に最適なエネルギーミックスは、社会的コストを負担させられた最終需要家が選ぶもの。その前提として、数字の議論の前にエネルギーセキュリティ等の考え方を議論して、「市場の失敗」等に対応する政策を考えるべき。」**B【一〇%】**「原発事故の甚大な被害や地震国という現実を直視し、原子力発電への依存度を

低減させるが、多様な電源構成によるエネルギー安全保障向上、原子力平和利用国としての責任や人材・技術基盤の確保等の観点から、一定の原子力発電比率を維持する。」**C【五%】**「原子力発電に関わるすべてのコストを事業者が負担させるべきで、数字の議論を格段に高め、エネルギー安全保障や地球温暖化対策の観点から原子力発電を引き続き基幹エネルギーとして位置付け、世界のエネルギー問題に貢献する。」**D【二〇%】**「原子力発電の安全基準や規制体制の再構築を行った上で原子力発電への依存度を

低減させるが、多様な電源構成によるエネルギー安全保障向上、原子力平和利用国としての責任や人材・技術基盤の確保等の観点から、一定の原子力発電比率を維持する。」**E【二五%】**「事故の教訓を活かし、わが国の原子力発電技術の安全性を格段に高め、エネルギー安全保障や地球温暖化対策の観点から原子力発電を引き続き基幹エネルギーとして位置付け、世界のエネルギー問題に貢献する。」**F【三五%】**「エネルギー安全保障と経済成長

## 対トルコ協力が進展

### 原子力協定 実質合意に達す

外務省は二十三日、日本とトルコの原子力協力協定の締結交渉が実質合意に達したと発表した。両国では、昨年一月より、協定締結交渉を行ってきたが、この二日にトルコ・アンカラで行われた協議を経て合意に至ったもの。今後は、協定案文の確定作業に入ることとなる。

去る今年一月の玄葉光一郎外務相のエルドアン・トルコ首相表敬では、わが国の大震災・原子力事故により、遅れをきたしたものの、引き続き両国間の原子力協力を進めていくことが確認されている。現在、日本の二国間原子力協力協定は、カナダ、英国、フランス、豪州、中国、米国、ユーラトム、カザフスタン、韓国、ベトナム、ヨルダンの十か国・一地域で発効済み、ロシアが署名済みという

状況だ。トルコでは、電力供給の増強に向け、一七年頃の原子力発電導入を目指しており、わが国とは、一〇年十二月に経済産業省との覚書が既に締結されている。年率九%前後の経済成長を続けているトルコは、電力供給の面でも、ロシアとアックユ原子力発電所建設計画(四基)に合意した後、次のシノップ原子力発電所(四基)の建設についても韓国、日本と導入交渉を行ってきた。さらに最近では中国ともイーネアタ原子力発電所の建設計画を含めた交渉を開始している。

## この一週間の出来事

〈22日(木)～28日(水)〉

- ・敦賀市長が経産相訪問、「再稼働」で会談(22日)
- ・放射線蛍光プラスチック論文、欧で表彰(23日)
- ・ソウルで核保安サミット、野田総理演説(27日)

## 原産新聞の紙面から

### ◇国内ニュース

- ・安全委員会、指針類の見直し進む(2面)
- ・原子力委、福島県で意見交換会開催(2面)
- ・国会事故調、ウクライナより招致(2面)
- ・「福島事故から1年」

——3・11東京での24時間の体験記(4面)

### ◇海外ニュース

- ・フィンランドが新設計画で入札手続きへ(3面)
- ・米政府、小型炉開発支援に4.5億ドル(3面)
- ・米TVA、2件の原子炉完成計画を再設定(3面)

## 世界で最も信頼されている原子力産業情報誌

### Nuclear Fuel / ニュークリアー・フューエル

プラッツ・ニュークリアー・フューエルは、全世界の核燃料サイクル情報を網羅した情報誌です。原子力産業界の政策や価格動向について鍵となる情報を、隔週で提供しています。

### Nucleonics Week / ニュークレオニクス・ウィーク

1960年の創刊以来、プラッツ・ニュークレオニクス・ウィークは原子力発電業界の意思決定サポートツールとして、業界に不可欠な産業ニュースを正確かつ客観的にお伝えしています。

弊社サービスについてはプラッツ東京オフィスまでお気軽にお問い合わせ下さい。

営業代表番号(担当:新藤・吉川)/03-4550-8300 Eメール/[tokyo@platts.com](mailto:tokyo@platts.com) ホームページ/[www.platts.com](http://www.platts.com)



### プラッツについて

プラッツはニューヨーク証券取引所に上場するマグローヒルカンパニーズの一員で、エネルギーや金属市場の情報を配信する世界最大規模を誇る独立系通信社です。